

# 経済学部設立50周年に寄せて

—— 初心に立ち戻り、新たな発展を ——

経済学部長 梅 本 哲 世

昨2009年、桃山学院は創立125周年、大学は開学50周年を迎えました。これは同時に経済学部設立50周年であり、本号はこれを記念して発行されるものです。

簡単に大学と経済学部の歴史を振り返ってみたいと思います。

1958（昭和33）年、桃山学院は大学設置認可申請書を文部省に提出し、翌59年1月、経済学部の設置が認可されました。そして、同年4月6日、365名の第1期生を迎えて入学式が挙行されました。本学は当初、経済学部のみ単科大学として発足したのでした。キャンパスは、桃山学院中学校・高等学校があった昭和町学舎に併設されました。

1966年には社会学部が開設され、同時に登美丘学舎も完成して、1・2回生は登美丘キャンパスで、3・4回生は昭和町キャンパスで専門課程を履修しました。1971年4月、大学は登美丘キャンパスに統合移転し、1973年には経営学部が開設され、桃山学院大学は3学部を備えた、総合大学と呼ぶにふさわしい大学となりました。

大学開学30周年を迎えた1989年に文学部が開設され、既存の社会科学系学部に加えて桃山学院大学は文化系総合大学への一步を踏み出しました。さらに、1993年4月には大学院文学研究科修士課程および経営学研究科修士課程が開設され、1995年4月に大学は和泉市へキャンパスを全面移転しました。1998年には社会学部社会福祉学科が増設され、大学院経済学研究科修士課程が設置、1999年には文学研究科博士後期課程および経営学研究科博士後期課程が設置されました。また、2002年に法学部および経済学研究科後期博士課

程が設置され、これにより 5 学部 4 研究科体制が整いました。2003年に社会学研究科後期博士課程、2006年に経済学部経済学科「中国ビジネスキャリアコース」、経営学研究科「日中連携ビジネスコース」が設置されました。さらに、2008年 4 月、文学部は「国際教養学部」に改組されました。

以上のように桃山学院大学はこの50年間に文化系総合大学として着実に発展してきました。しかし、近年、少子化を背景として大学間競争が激化するなかで、いま大きな転機を迎えています。

桃山学院大学の設立趣旨を書いた「大阪経済と桃山学院大学の特色—本大学の設立を動機づけた特別の事情」という文書が残されています（全文は、『桃山学院年史紀要』第21号に掲載）。そこでは、大阪経済の地盤沈下を分析して、その一大原因を「大阪という地域社会と学問との接触の理想的でなかったこと」に求め、桃山学院大学の社会的任務として、「客観的精神をもって学問を一般的に批判的精神において究明すること」と同時に、「地域的社会に即した学問の発達、文化の向上」をあげています。さらに、その任務の達成のための構想として、第 1 に、正課教育課程として、経済学一般の理論的・実証的方法と応用の会得、日本経済との関連における大阪経済の実態とその問題点の分析、第 2 に、産業界の知名人などを招聘して時事問題を講義する常設的特設講座の併設、第 3 に、大阪経済を日本経済との関連で究明するための産業貿易研究所の活動、を掲げています。本大学の建学の精神は、「キリスト教精神」と「世界の市民の育成」だけでなく、「(大阪の) 地域経済の発展に役立つ」という内容を重要な一環として含んでいたのです。

桃山学院大学が今後さらに新たな発展をとげるためには、改めて以上のような建学の精神を思い起こしつつ、それを現在の状況に適合した形に発展させて、大学改革を推し進めることが必要であると考えます。

経済学部では、2 年前から学部改革案を検討してきましたが、このほどようやく具体的な実施案を教授会で合意しました。その基本方針は、1. 学生が具体的な学習目標を持つことができ、学習意欲を高めることのできるためのカリキュラムの改革とコース制の再編、2. 学生と教員が接触しやすい仕

組みの導入， 3. 体験型学習の積極的な導入， とまとめることができます。  
これはあくまで改革の第一歩にすぎませんが， 経済学部として大きな一歩を  
踏み出したものと確信しています。

いま， 経済のグローバル化に対応し， 地域経済の発展に貢献できる研究と  
教育が急務となっていると思います。 設立50周年にあたり， 桃山学院大学経  
済学部は， その歴史的伝統を生かしつつ， 今後とも積極的に学部改革を推し  
進める所存です。 関係各位のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。